

『福岡からの手紙。』

東京は雨ばかり続いていると聞きました。いよいよ秋なんですね。

私は福岡の博多座で、ただいまミュージカル「レ・ミゼラブル」に出演中。
こちらはまだまだ夏の匂いがします。日差しも強く、夜になってもまだ生暖かい空気のまま。
持ってきた洋服はほとんど秋物なのに、ちょっと困ってます。

旅公演はいつも合宿みたいで楽しいし、特に福岡なんて美味しいものあふれる街ですから、私にとっては天国のような生活…のはずなんだけど、あくまでお仕事で来ている以上、なかなか羽を伸ばすという感じにもなれないのがつらいとこ。

だけど先日、出演者やスタッフの仲間と行った畑の真ん中にある不思議なお店は、本当に運命の出会いでした。私がどんなに感動したか伝えたいけど、とうていあなたの想像を超えるものだと思います。

ただ食べ物が美味しいだけではありません。なんと食べばいいか、とにかく人の想いとかが、この世界の営みのすべてが凝縮されているような、すばらしい空間でした。星空のした、静かな山に囲まれて…。人をしあわせにするって、こういうことだ！って、心底思った。

こんな場所と出会えたこと、そこで一緒に過ごした仲間との深い縁を思うと、涙が出るような不思議な体験でした。

こうして良い出会いに恵まれたことも、「レミゼ」という作品に感謝していることのひとつです。

1ヶ月間、がんばろう、すてきな舞台になるよう全力を尽くそうと、改めて身の引き締まるような出来事でした。

でも、長いと思っている時間も、あっという間に過ぎていきます。

私の2007年のレミゼも、残すところあと約20ステージとなりました。その限られた時間の中でもっともっと何か大切なものをつかめるように、どん欲に挑みたいと思います。そして、いつも近くにいてくれる大切な仲間たちへの感謝と、そばにいらなくても同じ空を見上げて想いを馳せている人たちとのつながりを忘れずに、日々過ごしたいと思います。

以上、秋の夜長に考えたことでした。

それでは、また。

福岡の空の下にて。

* maaya *